

さいじょう たけ お

西條剛央さん ふんばろう東日本支援プロジェクト代表

昭和 49（1974）年、仙台市生まれ。早稲田大学大学院（MBA）専任講師。

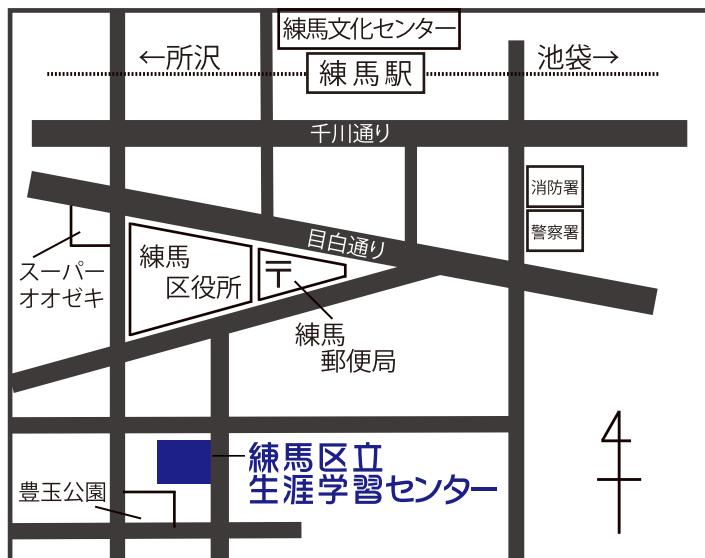
平成 23（2011）年、東日本大震災で伯父をなくす。同年被災地支援のため、専門としている「構造構成主義」の理論を用い、ボランティア未経験ながら日本最大級のボランティア・プロジェクト「ふんばろう東日本支援プロジェクト」を立ち上げ、平成 24 年 1 月時点で 3000 か所以上の避難所、仮設住宅等に、15 万 5000 品目に及ぶ物資を支援。SNS（ソーシャルネットワークサービス）や既存のウェブサービスを援用することで迅速かつ広範な支援を実現した。「家電プロジェクト」では、行政や日本赤十字社の支援が受けられない個人避難宅をはじめ、2 万 5000 世帯以上の人々に家電を送り、さらに、自立支援を目的とした「重機免許取得プロジェクト」「ミシンでお仕事プロジェクト」などさまざまな支援を現在も継続中。主著に『母子間の抱きの人間科学的研究』（北大路書房、2004）『持続可能な社会をどう構想するか（構造構成主義研究 4）』（同、2010、共編）。

ふんばろう東日本プロジェクト関連書籍に『人を助けるすごい仕組み — ボランティア経験のない僕が、日本最大級の支援組織をどうつくったのか』（ダイヤモンド社、2012）ほか。

なぜ「がんばろう」ではなく「ふんばろう」なのか
廃墟と化した南三陸で見た“希望の看板”

ふんばろうは、壊滅した廃墟の中、骨組みだけになった「さかなのみうら」さんのお店の前に、「ふんばろう南三陸町 一歩ずつ前へ」と書いてあった看板が最初の出発点です。
これが、4 月 1 日、南三陸町で見た、“希望”の看板です。

音も色も抜き取られた何もない街の中をさまよってたときに、出会ったのがみうらさんであり、この看板だったのです。すべてを失っても、前を向こうとしている人たちがいる。
すべてを失っていないぼくらが本気になればなんだってできるはずだ、そう思ったのです。【西條さんのメッセージより】



練馬区立生涯学習センターホール 練馬区豊玉北 6-8-1

西武池袋線・都営大江戸線「練馬駅」下車
徒歩 10 分

お車でのご来場はご遠慮ください。